

「あさがや」を「アサガオ」でいっぱい！

3日、JR阿佐ヶ谷駅頭では、近くの杉並第一小学校の2年生が育てた600株のアサガオの苗の配布が行われました。この取り組みは、平成元年から「あさがやをアサガオでいっぱいにして！」と、取り組んでいるもので、小学校1年生の時に生活科の学習で育てたアサガオから採れた種を保管し、2年生になってその種から苗をつくり、地域の方々に配布しています。

杉並区で最も歴史の古い小学校に、四半世紀の歴史を積み重ねてきた取組があります。それは、朝顔の苗の配布です。JR阿佐ヶ谷駅から100mの距離にある区立杉並第一小学校の2年生が、1年生の時に生活科の学習で育てた朝顔から種を取り、その種を2年生になって発芽させ、地域の方々に配布します。平成元年、「あさがやをアサガオでいっぱいにして！」ということで、生活科の授業の一環で始まったものです。朝顔を育ててもらうことで、地域の方々との交流を深めることが大きなねらいの一つです。そのことで、地域の方々に、子どもたちに関心を持ってもらい、子どもたちの安全安心が図られることも期待できます。

4月下旬、2年生たちは、昨年から保管してきた朝顔の種を蒔きました。その数は1500粒ほどです。当番を決めて水やりをすると、双葉の先に本葉が展開し、20cmほどに育ちました。苗の配布用に、紙カップ600個を準備。カップ一つひとつに子どもたちが朝顔の絵を描き、2本の苗を入れました。また、朝顔の苗の配布を知らせるポスターを描き、駅や学校の周囲に貼り出しました。



3日午前10時、阿佐ヶ谷駅頭で、杉並第一小学校の2年生67名から地域の保育園や幼稚園の子どもたち約200名に、朝顔の苗がプレゼントされました。2年生の代表が、「まちのみんなが笑顔になれるように育てました」「あさがやをアサガオでいっぱいになりたいです」と元気にあいさつをしました。その後、2年生たちは手分けをして、400株の苗を駅利用者に配布しました。ポスターを見て訪れた方もいて、「もう朝顔の時期が来たかと、毎年楽しみにしています」と笑顔で話されました。小学校の取組みが、地域にもしっかりと根付いています。

【報道機関 問い合わせ先】杉並第一小学校： TEL：3338-8367

総務部広報課： TEL：3312-2111